

Q1 今日の日付をご記入ください。

平成 年 月 日

Q2 あなたの年齢、性別、お住まいの都府県名を教えてください。

- a. 年齢 → 歳
 b. 性別 → 1. 男性 2. 女性 3. その他 ()
 c. お住まい → 1. () 都府県 2. 海外 ()
- Q3 今回あなたは何か心配で、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けられましたか? (○はいくつでも)
1. 女性との性的接触による感染 3. 注射針などの共用による感染
 2. 男性との性的接触による感染 4. その他 ()

Q4 HIV抗体検査(エイズ検査)を受けることはいつ決められましたか?

1. この医療機関に来る前に決めていた。
 2. この医療機関に来てから決めた。
 ↳ そのきっかけは何ですか? →
 (○はいくつでも)
1. 医師に勧められたから
 2. この医療機関でポスターを見たから
 3. この医療機関でパンフレットを見たから
 4. その他 ()

Q5 HIV抗体検査(エイズ検査)は今回が初めてですか?

1. 初めて
 2. 以前受けたことがある
 ↳ 2 を選んだ方は、以下の問いにもお答えください。
 過去1年以内にエイズ検査を受けたことがありますか。(1. はい 2. いいえ)

Q6 この約1カ月の間に、エイズに関する情報を以下のもので見聞きましたか? (○はいくつでも)

1. 医療機関に貼ってあったポスター 10. 雑誌
 2. 医療機関に置かれていたパンフレット 11. 自治体の広報
 3. その他のパンフレット 12. インターネットのサイト
 4. 電車の吊り広告 13. ゲイ向けのインターネットサイト
 5. 街頭の大きなテレビ画面 14. 飲み屋(バー)
 6. テレビ 15. デイスコ/クラブ
 7. ラジオ 16. 知人/友人からの情報(口コミ)
 8. 学校に貼ってあったポスター 17. その他 ()
 9. 新聞 18. どれもなし

Q7 以下の情報についてどう思われますか?

1. 最近あなたの住んでいる都府県でHIV(エイズウイルス)感染者の報告数が増えている。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
 2. エイズ検査は日本中どここの保健所でも受けることができる。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
 3. 性病にかかっていても半数以上の人では無症状である。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
 4. 性病にかかっているとHIV(エイズウイルス)に → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
 何倍もかかりやすくなる。

Q8 次の図柄や印刷物の中で、見たと思うものがありますか?

1. ある 2. どれも見た記憶がない
 ↳ あると思う方は、下記の図の番号に○をつけてください。(○はいくつでも)



Q9 これまでエイズや性病に関することで、どこか専門の相談サービスを利用したことがありますか?

1. ある 2. ない
 ↳ どこに相談しましたか? 相談したところの番号に○をつけてください。(○はいくつでも)
1. 保健所・保健福祉センターの相談
 2. NGO(民間のエイズボランティア組織など)
 3. エイズ予防財団
 4. その他 ()

Q10 HIV検査について、ご意見があればお書きください。

以上で質問は終わります。ご協力ありがとうございました。

エイズ予防のための戦略研究 エイズ相談・HIV抗体検査等実施状況

記 載 日 _____ 月 _____ 日

保 健 所 名 _____

記載担当者名 _____

1. エイズ相談受付状況 (件数)

区分	電話相談	来所
男		()
女		()

注1：来所件数は、相談だけの者、検査のために来所した者（採血のために来所した者、結果を聞きに来所した者を含む）の合計数を記入する。

注2 () 内は、相談だけの者を再掲する。

2. HIV抗体検査実施状況

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							
女	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							

注：件数は、採血を実施した月に計上する。 ※陽性者 (0) の場合も、計に必ず記入する。

3. 抗体検査の結果通知数状況

	検査結果通知数	(内、陽性者通知数)
男		
女		

注：件数は、結果通知をした月に計上する。
※陽性者 (0) の場合も、必ず記入する。

4. 医療機関の受療報告数

男	
女	

注：受療報告数は、紹介したHIV診療の医療機関から報告・連絡のあった月に計上する。

5. 性感染症検査受検者数

性感染症検査の実施：

1. あり →
2. なし

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男							
女							

注：1人が複数の性感染症検査を受けた場合は1件として計上する。

6. エイズ対策として、当該月に実施した事業（住民に対する広報活動、講習会など）

1. あり →
2. なし

実施月日	対象者	人数	内容・講師	使用教材

ご記入後は、平成20年10月20日(月)までに、戦略研究データセンターへFAX願います。

FAX送付先：0120-035126 (フリーダイヤル)

フリーダイヤルで送信出来ない場合は 059-5287-5126 までFAX送信して下さい

エイズ予防のための戦略研究 クリニックにおけるHIV抗体検査モニタリング調査報告票

記入日 _____ 月 _____ 日

医療機関名 _____

記入者名 _____

1. STD受診希望者数 (性感染症の検査・治療を希望した人すべてを含みます。ただし、治療通院は除きます。)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男							
女							

注：再感染による受診は同じ月内でも数に計上してください。

2. HIV抗体検査実施状況 (妊婦検診・術前検査は除きます。)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							
女	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							

注1：検査数は延べ数で御願います (例：同じ人が2回受けたら2回分に計上してください)。

注2：陽性者は実数で記入し、検査実施日の属する月に計上してください。

注3：陽性者がいない場合も“0”と必ずご記入ください。

3. 抗体検査の結果通知数状況

	検査結果通知数	(内、陽性者通知数)
男		
女		

注：結果通知数は、検査をした月ではなく、受検者に結果が伝えられた月に計上してください。

4. 医療機関の受療報告数

男	
女	

注：受療報告数は、紹介したHIV診療の医療機関から報告・連絡のあった月に計上してください。

ご記入後は、平成20年10月20日(月)までに、戦略研究データセンターへFAX願います。

FAX送付先：0120-035126 (フリーダイヤル)

フリーダイヤルで送信出来ない場合は 03-5287-5126 までFAX送信して下さい

*フリーダイヤルで送信した際の履歴に03-5287-5126と表示される場合がありますが、
受信者通信料負担で03-5287-5126へ送信しているため誤表示ではありません。

エイズ予防のための戦略研究
STD関連医療機関におけるHIV抗体検査／STD受診者数モニタリング調査報告票

記入日 _____ 月 _____ 日

医療機関名 _____

記入者名 _____

1. STD受診希望者数（性感染症の検査・治療を希望した人すべてを含みます。ただし、治療通院は除きます。）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男							
女							

注：再感染による受診は同じ月内でも数に計上してください。

2. HIV抗体検査実施状況（妊婦検診・術前検査は除きます。）

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							
女	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							

注1：検査数は延べ数で御願います（例：同じ人が2回受けたら2回分に計上してください）。

注2：陽性者は実数で記入し、検査実施日の属する月に計上してください。

注3：陽性者がいない場合も“0”と必ずご記入ください。

ご記入後は、平成20年10月20日(月)までに、戦略研究データセンターへFAX願います。

FAX送付先：0120-035126（フリーダイヤル）

フリーダイヤルで送信出来ない場合は 03-5287-5126 までFAX送信して下さい

*フリーダイヤルで送信した際の履歴に03-5287-5126と表示される場合がありますが、
 受信者通信料負担で03-5287-5126へ送信しているため誤表示ではありません。

このアンケートは厚生労働科学研究事業（エイズ予防のための戦略研究）による調査で、エイズキャンペーンの向上を図る上で必要な情報を集めることを目的として実施しているものです。

アンケートでは名前や住所をおたずねすることはなく、個人の情報が外部にもれることは一切ありません。また、このアンケートはご本人の自由意志に基づくもので、回答しないことによる不利益は一切ありません。回答できない項目はご記入いただかなくても結構です。

内容をご確認の上、同意をいただける方のみ、アンケートへの記入をお願いいたします。アンケートへの記入をもって、この調査の目的を理解しご協力をいただいたものとさせていただきます。

なにとぞ調査にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

厚生労働科学研究事業 エイズ予防のための戦略研究

研究リーダー：市川 誠一（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

主任研究者：木村 哲（財団法人エイズ予防財団）

ご記入後は封筒に密封し、回収箱にお入れください。

本調査に関する質問は以下にご連絡ください。

財団法人エイズ予防財団 戦略研究推進室

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 水道橋ビル5階

TEL: 03-5259-1811(代表)、FAX: 03-5259-1812

Q1 今日の日付をご記入ください。

平成 年 月 日

Q2 あなたの年齢、性別、お住まいの都府県名を教えてください。

- a. 年齢 → 歳
 b. 性別 → 1. 男性 2. 女性 3. その他 ()
 c. お住まい → 1. () 都府県 2. 海外 ()

Q3 今回あなたは何か心配で、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けられましたか? (○はいくつでも)

1. 女性との性的接触による感染 3. 注射針などの共用による感染
 2. 男性との性的接触による感染 4. その他 ()

Q4 HIV抗体検査(エイズ検査)は今回が初めてですか?

1. 初めて
 2. 以前受けたことがある
 ↳ 2 を選んだ方は、以下の問いにもお答えください。
 過去1年以内にエイズ検査を受けたことがありますか。(1. はい 2. いいえ)

Q5 ここ約1カ月の間に、エイズに関する情報を以下のもので見聞きましたことがありますか? (○はいくつでも)

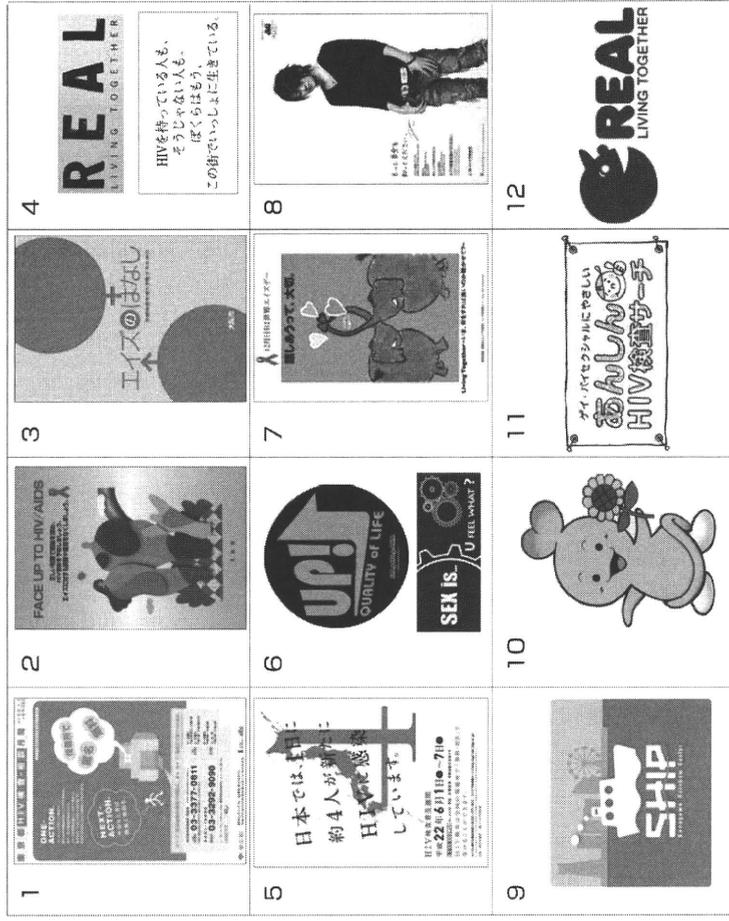
1. 医療機関に貼ってあったポスター 10. 雑誌
 2. 医療機関に置かれていたパンフレット 11. 自治体の広報
 3. その他のパンフレット 12. インターネットのサイト
 4. 電車の吊り広告 13. ゲイ向けのインターネットサイト
 5. 街頭の大きなテレビ画面 14. 飲み屋(バー)
 6. テレビ 15. ディスコクラブ
 7. ラジオ 16. 知人/友人からの情報(口コミ)
 8. 学校に貼ってあったポスター 17. その他 ()
 9. 新聞 18. どれもなし

Q6 以下の情報についてどう思われますか?

1. 最近あなたの住んでいる都府県でHIV(エイズウイルス)感染者の報告数が増えている。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
 2. エイズ検査は日本中どここの保健所でも受けられる。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
 3. 性病にかかっている人も半数以上の人では無症状である。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
 4. 性病にかかっているとHIV(エイズウイルス)に → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
 何倍もかかりやすくなる。

Q7 次の図柄や印刷物の中で、見たと思うものがありますか?

1. ある 2. どれも見た記憶がない
 ↳ あると思う方は、下記の図の番号に○をつけてください。(○はいくつでも)



Q8 これまでエイズや性病に関することで、どこか専門の相談サービスを利用したことがありますか?

1. ある 2. ない
 ↳ どこに相談しましたか? 相談したところの番号に○をつけてください。(○はいくつでも)
 1. 保健所・保健福祉センターの相談
 2. NGO(民間のエイズボランティア組織など)
 3. エイズ予防財団
 4. その他 ()

Q9 HIV検査について、ご意見があればお書きください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

このアンケートは厚生労働科学研究事業（エイズ予防のための戦略研究）による調査で、エイズキャンペーンの向上を図る上で必要な情報を集めることを目的として実施しているものです。

アンケートでは名前や住所をおたずねすることはなく、個人の情報が外部にもれることは一切ありません。また、このアンケートはご本人の自由意志に基づくもので、回答しないことによる不利益は一切ありません。回答できない項目はご記入いただかなくても結構です。

内容をご確認の上、同意をいただいただけの方のみ、アンケートへの記入をお願いいたします。アンケートへの記入をもって、この調査の目的を理解して協力をいただいたものとさせていただきます。

なにとぞ調査にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

厚生労働科学研究事業 エイズ予防のための戦略研究

研究リーダー：市川 誠一（名古屋市立大学院看護学研究科）

主任研究者：木村 哲（財団法人エイズ予防財団）

ご記入後は封筒に密封し、回収箱にお入れください。

本調査に関する質問は以下にご連絡ください。

財団法人エイズ予防財団 戦略研究推進室

〒101-0061 東京都千代田区三輪町1-3-12 水道橋ビル5階

TEL: 03-5259-1811 (代表)、FAX: 03-5259-1812

Q1 今日の日付をご記入ください。

平成 年 月 日
 年齢 → 歳
 性別 → 1. 男性 2. 女性 3. その他 ()
 c. お住まい → 1. () 都府県 2. 海外 ()

Q2 あなたの年齢、性別、お住まいの都府県名を教えてください。

Q3 今回あなたは何か心配で、HIV抗体検査(エイズ検査)を受けられましたか? (○はいくつでも)

1. 女性との性的接触による感染 3. 注射針などの共用による感染
2. 男性との性的接触による感染 4. その他 ()

Q4 HIV抗体検査(エイズ検査)を受けることはいつ決められましたか?

1. この医療機関に来る前に決めていた。
 2. この医療機関に来てから決めた。
- ↳ そのきっかけは何ですか? →
1. 医師に勧められたから
 2. この医療機関でポスターを見たから
 3. この医療機関でパンフレットを見たから
 4. その他 ()

Q5 HIV抗体検査(エイズ検査)は今回が初めてですか?

1. 初めて
 2. 以前受けたことがある
- ↳ 2 を選んだ方は、以下の問いにもお答えください。
 過去1年以内にエイズ検査を受けたことがありますか。(1. はい 2. いいえ)

Q6 この約1カ月の間に、エイズに関する情報を以下のもので見聞きましたことがありますか? (○はいくつでも)

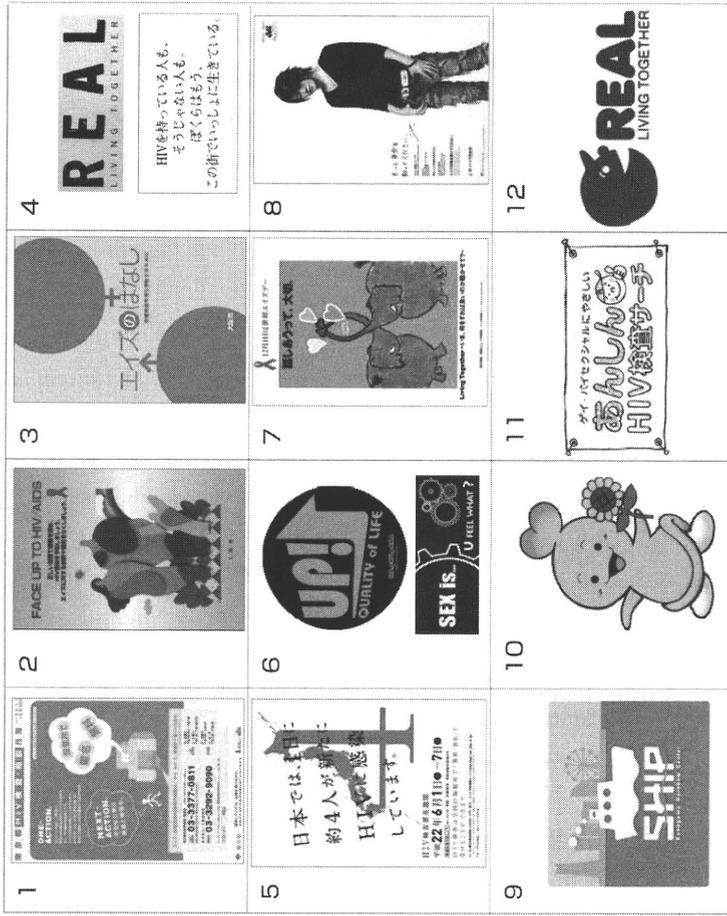
1. 医療機関に貼ってあったポスター 10. 雑誌
2. 医療機関に置かれていたパンフレット 11. 自治体の広報
3. その他のパンフレット 12. インターネットのサイト
4. 電車の吊り広告 13. ゲイ向けのインターネットサイト
5. 街頭の大きなテレビ画面 14. 飲み屋(バー)
6. テレビ 15. ティスコ/クラブ
7. ラジオ 16. 知人/友人からの情報(口コミ)
8. 学校に貼ってあったポスター 17. その他 ()
9. 新聞 18. どれもなし

Q7 以下の情報についてどう思われますか?

1. 最近あなたの住んでいる都府県でHIV(エイズウイルス)感染者の報告数が増えている。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
2. エイズ検査は日本中どここの保健所でも受けられる。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
3. 性病にかかっても半数以上の人では無症状である。 → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない
4. 性病にかかっているとHIV(エイズウイルス)に → 1. 正しい 2. 正しくない 3. わからない

Q8 次の図柄や印刷物の中で、見たと思うものがありますか?

1. ある
 2. どれも見た記憶がない
- ↳ あると思う方は、下記の図の番号に○をつけてください。(○はいくつでも)



Q9 これまでエイズや性病に関する事で、どこか専門の相談サービスを利用したことがありますか?

1. ある
 2. ない
- ↳ どこに相談しましたか? 相談したところの番号に○をつけてください。(○はいくつでも)
1. 保健所・保健福祉センターの相談
 2. NGO(民間のエイズボランティア組織など)
 3. エイズ予防財団
 4. その他 ()

Q10 HIV検査について、ご意見があればお書きください。

以上で質問は終わります。ご協力ありがとうございました。

エイズ予防のための戦略研究 エイズ相談・HIV抗体検査等実施状況

記 載 日 _____ 月 _____ 日

保 健 所 名 _____

記載担当者名 _____

1. エイズ相談受付状況（件数）

区分	電話相談	来所
男		()
女		()

注1：来所件数は、相談だけの者、検査のために来所した者（採血のために来所した者、結果を聞きに来所した者を含む）の合計数を記入する。

注2（ ）内は、相談だけの者を再掲する。

2. HIV抗体検査実施状況

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							
女	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							

注：件数は、採血を実施した月に計上する。 ※陽性者（0）の場合も、計に必ず記入する。

3. 抗体検査の結果通知数状況

	検査結果通知数	(内、陽性者通知数)
男		
女		

注：
件数は、結果通知をした月に計上する。
※陽性者（0）の場合も、必ず記入する。

4. 医療機関の受療報告数

男	
女	

注：
受療報告数は、紹介したHIV診療の医療機関から報告・連絡のあった月に計上する。

5. 性感染症検査受検者数

性感染症検査
の実施：

1. あり →
2. なし

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男							
女							

注：1人が複数の性感染症検査を受けた場合は1件として計上する。

6. エイズ対策として、当該月に実施した事業（住民に対する広報活動、講習会など）

1. あり →
2. なし

実施月日	対象者	人数	内容・講師	使用教材

7. 現在実施しているHIV検査について、以下のことについてお知らせください。

1. 通常のHIV検査に加えて、特別にHIV検査（臨時検査）を実施しましたか。ある場合は、その概要を簡単に記入してください。
2. インフルエンザ流行への対応で、HIV検査の実施に支障（検査受入れ人数の縮小、中止など）をきたすことがありましたか。ある場合は、その概要を簡単に記入してください。

ご記入後は、7月20日(火)までに、戦略研究データセンターへFAX願います。

FAX送付先：0120-035126（フリーダイヤル）

フリーダイヤルで送信出来ない場合は 03-5287-5126 までFAX送信して下さい

エイズ予防のための戦略研究 クリニックにおけるHIV抗体検査モニタリング調査報告票

記入日 _____ 月 _____ 日

医療機関名 _____

記入者名 _____

1. HIV抗体検査実施状況（妊婦検診・術前検査は除きます。）

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							
女	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							

注1：検査数は延べ数で御願います（例：同じ人が2回受けたら2回分に計上してください）。

注2：陽性者は実数で記入し、検査実施日の属する月に計上してください。

注3：陽性者がいない場合も"0"と必ずご記入ください。

2. 抗体検査の結果通知数状況

	検査結果通知数	(内、陽性者通知数)
男		
女		

注：結果通知数は、検査をした月ではなく、受検者に結果が伝えられた月に計上してください。

3. 医療機関の受療報告数

男	
女	

注：受療報告数は、紹介したHIV診療の医療機関から報告・連絡のあった月に計上してください。

ご記入後は、7月20日(火)までに、戦略研究データセンターへFAX願います。

FAX送付先：0120-035126（フリーダイヤル）

フリーダイヤルで送信出来ない場合は 03-5287-5126 までFAX送信して下さい

*フリーダイヤルで送信した際の履歴に03-5287-5126と表示される場合がありますが、受信者通信料負担で03-5287-5126へ送信しているため誤表示ではありません。

**エイズ予防のための戦略研究
クリニックにおけるHIV抗体検査モニタリング調査報告票**

記入日 _____ 月 _____ 日

医療機関名 _____

記入者名 _____

1. HIV抗体検査実施状況 (妊婦検診・術前検査は除きます。)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
男	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							
女	HIV抗体検査数							
	(内、陽性者数)							

注1：検査数は延べ数で御願います（例：同じ人が2回受けたら2回分に計上してください）。

注2：陽性者は実数で記入し、検査実施日の属する月に計上してください。

注3：陽性者がいない場合も”0”と必ずご記入ください。

ご記入後は、7月20日(火)までに、戦略研究データセンターへFAX願います。

FAX送付先：0120-035126 (フリーダイヤル)

フリーダイヤルで送信出来ない場合は 03-5287-5126 までFAX送信して下さい

*フリーダイヤルで送信した際の履歴に03-5287-5126と表示される場合がありますが、受信者通信料負担で03-5287-5126へ送信しているため誤表示ではありません。

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
エイズ予防のための戦略研究 総合研究報告書

課題 1

首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした
HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究

研究リーダー：市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

課題 1 は、首都圏（東京、神奈川、千葉）および阪神圏（大阪、京都、兵庫）に居住する MSM（男性と性的接触を有する男性）を対象に、HIV 抗体検査促進のための啓発普及プログラムを実施し、HIV 抗体検査件数の増加と AIDS 発症者の抑制を図ることを目的としている。2006 年-2007 年は、研究計画の策定、首都圏、阪神圏の研究組織の構築、介入方法とその評価に関する調査手法の確定、研究計画の倫理委員会審査、そして、主要評価のための調査協力機関の選定と依頼などを行った。2008 年以降は、研究計画書に沿って啓発、検査、相談、評価調査の体制を構築し、1) HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及、2) HIV 抗体検査体制の整備と拡大、3) 相談体制の整備 - HIV 検査で陽性が判明した患者への受診支援の整備、4) 評価調査体制の整備と調査の実施、をおこなった。5 年間の研究の概要は以下の通りである。

1. 首都圏地域の MSM を対象にした研究

1) HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及

MSM における HIV/AIDS の現状を伝える REAL キャンペーン、そして、HIV に関する様々なリソースを紹介する情報サイト「HIV マップ」、これらの構築と共に、新宿、上野、浅草、新橋、横浜等の商業施設等および各種のゲイサークルと連携した啓発ネットワークの構築、さらに MSM の HIV 検査受検促進キャンペーンの受け入れができる保健所を紹介する「あんしん HIV 検査サーチ」の確立を 2007-2008 年にかけて準備した。

2009 年から AIDS 発症を予防「できる！」キャンペーンを開始し、これに関連する新たな紙媒体の広報資材を商業施設やクラブキャンペーンで配布し、インターネット（PC 版、携帯版）サイトにも連動して啓発した。コンテンツには、検査情報を盛り込み、訴求性の高い資材とした。特に 2010 年度は、年間を通しての広報普及計画をたて、訴求性のある資材とともに、定期的にリニューアルした検査機関情報を、様々な媒体（紙、MSM が利用する Web・雑誌、イベント、商業施設、サークル活動、放送など）によって、多様な MSM に向けて提供した。

上野・浅草、新橋、八王子、横浜、千葉県は、戦略研究が MSM への啓発を始めて開始した地域である。戦略研究の終了によりこれらの地域での取り組みが継続されなくなった場合、構築した MSM コミュニティへの予防啓発が停止することとなり、今後の問題点でもある。

2) HIV 抗体検査体制の整備と拡大

2006 年から 2007 年は、MSM が HIV 検査を受検できる環境を整えるために、MSM 対象の HIV 検査が実施できる保健所や医療機関のネットワーク構築を進めた。またそれに関連して HIV 検査実施者への研修会を企画し、東京、神奈川、千葉で実施した。ゲイ NGO スタッフによるロールプレイを導入した MSM 受検者や HIV 陽性者への相談・対応に関する研修は、受講した保健師、医師等から高い評価を得た。研修会を受講した保健所等の検査機関の内、MSM の HIV 検査に応じた保健所を「あんしん HIV 検査サーチ」に掲載し、臨時検査等の紹介を行った。なお、このあんしん HIV 検査サーチで紹介した保健所の検査機関を首都圏の介入定点機関とした。

3) 相談体制の整備

HIV に関連して生じる様々な相談、特に MSM 向け相談の対応が可能な NGO 等との連携を進

めた。相談窓口を開設している機関をリストアップし、インターネットサイト「HIV マップ」に掲載し、自治体、拠点病院、NGO、検査機関等にこのインターネットサイトを紹介し、検査と相談を結ぶようにした。また、ドラッグの支援団体、聴覚障害者の支援団体とも共同で資料を作成した。

4) 評価調査体制の整備と調査実施

啓発介入プログラムのゲイコミュニティ内での浸透度を評価することを目的とし、RDS 法による携帯電話調査、バー顧客対象の質問紙調査、および質的調査を実施した。

2007 年から 2010 年にかけて 3 回の RDS 法による携帯電話調査を、体育会系サークル、文化系サークル、Living Together 計画プログラムの参加者を対象に実施した。

ゲイ向け商業施設に調査協力を依頼し 2008 年度 109 店舗、2010 年度 177 店舗で、3,549 部の回収を得た。生涯での HIV 抗体検査受検割合は 2008 年度が 61.3%、2010 年度が 59.1%であった。年齢層別に 2008 年度は 30-39 歳が他の年齢層に比べて高く 66.6%、次いで 25-29 歳が 63.8%であった。2010 年度は 25-29 歳が他の年齢層に比べて高く 64.4%、次いで 30-39 歳が 64.2%であった。過去 1 年間の受検割合は 2008 年度 31.7%、2010 年度 27.7%で（内初めての検査 25.2%）であった。

首都圏におけるゲイ・バイセクシュアル男性の情報ネットワークと HIV 受検行動および受検に伴う行動変容、上野・浅草、新橋の商業施設の利用者の啓発ニーズなどを質的調査により探った。

2. 阪神圏地域の MSM を対象にした研究

1) HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発資料・プログラムの開発と普及

2007 年度は研究計画に基づくプログラム案策定、戦略研究広報ロゴ作成、啓発対象に合わせた資料開発・普及法を検討し試行し、2008 年度はこれらの啓発プログラムの普及拡大を図った。2009 年度からは 2008 年度までに構築した Web、紙媒体、大型啓発イベントの広報を活用して、クリニック検査キャンペーン広報を実施した。戦略研究では阪神圏の商業施設への啓発活動を新たに拡大した。これらの啓発活動が戦略研究の終了により継続されなくなる場合、構築した MSM コミュニティへの予防啓発が後退する可能性がある。戦略研究で取り組んできた啓発活動を継続する取り組みが必要となる。

2) HIV 抗体検査体制の整備と拡大

2007 年度は STD クリニック検査キャンペーンを 3 クリニックと連携し、2008 年からは 7 クリニックと連携して実施した。クリニック検査キャンペーンでは月当たりの受検者数が 2009 年から増加が見られ、2010 年もほぼ同程度の受検者数となった。またキャンペーン受検者中の陽性割合も高い結果となった。

2009 年の新型インフルエンザ流行により一部の保健所はその対応に追われ HIV 検査の受入に支障が生じ、検査件数の減少を招いた。戦略研究に協力した STD クリニックではインフルエンザによる影響は無く、受検者数は増加した。クリニック検査キャンペーンの参加者数が毎月一定数あったことから、MSM コミュニティにおいてクリニック検査が浸透したものと考えられる。戦略研究による 7 クリニックでの受検機会の提供についてその継続について検討する必要がある。

3) 相談体制の整備

陽性者支援のための電話相談体制「陽性者サポートライン関西」を NPO 法人ふれいす東京の協力を得て確立し、週 1 回の電話相談の継続、相談員の育成、地域の相談にかかわる専門職ネットワークを構築するためのケースカンファレンスなどを実施した。

新規陽性者グループミーティングプログラムを NPO 法人ふれいす東京の協力を得て確立し、新規陽性者対象グループミーティングを 2 クール、計 6 回実施した。今後は、相談日を増やすなど電話相談体制の強化が必要である。新規陽性者を支援するプログラムは、戦略研究によって初めて地域に導入することができたもので他地域への事例となる。

4) 評価調査体制の整備と調査実施

啓発介入プログラムのゲイコミュニティ内での浸透度を評価することを目的とし、RDS 法による携帯電話調査、バー顧客対象の質問紙調査、および質的調査を実施した。阪神圏では、

大型啓発イベント PLuS+の会場、京都・神戸・姫路のバーにて、2007年から2009年にかけて計3回の調査を実施し、総計1249件の有効回答を得た。

阪神圏で実施したクリニック検査キャンペーンの広報資材についての認知は経年的に上昇していた。生涯の検査受検経験についても58.0%から68.2%へ上昇がみられた。

PLuS+来場者調査ではコミュニティにおける屋外大規模イベントの実態把握を行った。PLuS+来場者推定実数は年々増加し、最終年度である2010年度には約6,000人を超えた。

バー顧客調査の結果からPLuS+認知割合は全体で66.8%(2009年度)から66.9%(2010年度)であり、そのうち来場経験割合は54.1%(2009年度)から57.2%(2010年度)であった。ほぼ同じ割合で推移しており、コミュニティにおけるPLuS+認知割合は極めて高く維持されている一方で、PLuS+来場者数の増加はコミュニティを頻繁に利用しない人を巻き込んだ可能性が示唆された。

バー顧客調査の結果では、生涯でのHIV抗体検査受検割合は49.8%(2009年度51.0%、2007年度54.2%)であり、過去1年間のHIV抗体検査受検割合(2010年度29.0%、2009年度26.7%、2007年度29.5%、2005年度27.2%)ともに大きな変化はみられなかった。

MASH大阪が中高年MSMに受検を促進するための啓発資材を開発するにあたり、ソーシャルマーケティングの文脈に則ってクライアントニーズをアセスメントするインタビュー調査を実施した。調査の結果、地域基盤的MSMネットワークの年齢による断絶や、社会・文化的規範の相違、セックス・恋愛に対する価値付けの違いが明らかになった。またMASH大阪のプログラム立案と評価のために、クライアントである近畿圏に流入するMSM(とりわけMSM向け商業施設集積エリアである堂山、ミナミ、新世界、京都、神戸に流入するMSM)の人口流動の実態を把握することを目的とした調査を実施した。堂山地域に関してはすでに先行研究があるため、本研究では大阪の他地域と京都、神戸を研究対象地域とした。結果として、大阪ミナミ地区に流入するMSM実数を14,506人、新世界地区に流入するMSM実数を14,506人、京都地区に流入するMSM実数を14,506人と推定した。神戸地域に関しては今後データが補正される可能性があるが、現時点で流入するMSM実数を14,506人と推定した。

3 結語

エイズ予防のための戦略研究で与えられた目標は、HIV検査件数の倍加とエイズ発症での報告数を減少することである。MSMを対象とした本研究課題では、2009年度までに、MSMを対象とした広報のためのネットワーク構築、検査機会を確保するための検査機関、医療機関との関係構築、そしてHIV感染やHIV検査に伴う不安や悩みへの支援体制の構築を進め、首都圏、阪神圏ともに2009年度から本格的な介入を実施した。

首都圏では、様々な相談支援機関の協力を得てHIVマップによる情報支援を行い、また継続的に保健所等の検査担当者を対象とした研修会(セクシュアリティ理解、MSM対応のロールプレイ、MSM対象の検査広報の工夫など)を自治体や保健所の担当者との協議しつつ実施することができた。

阪神圏では電話相談「陽性者サポートライン関西」や感染を知って間もない人を対象としたグループプログラム「ひよっこクラブ」を立ち上げ、その一方でクリニックの協力を得たHIV検査の提供を2009年から2010年にかけて展開した。

主要評価のための調査、即ち保健所やクリニックでのHIV検査受検者のアンケート調査は、わが国では初めての事業であり、延べ12万件の回答があったことは評価できる。この分析は、第3者機関であるデータセンターが行う。啓発効果を示す受検者の資材認知と受検行動との関連はデータセンターの分析結果を待たねばならない。

バー顧客対象の質問紙調査によれば、首都圏のREALロゴマークの認知率は2008年25.4%から2010年51.7%に、あんしんHIV検査サーチの認知率は2008年4.8%から2010年12.7%に上昇した。阪神圏のクリニック検査キャンペーンの認知率は2010年49.6%とほぼ半数が知っている状況にあった。主要評価および副次評価に関しては、今後も詳細な分析を行う必要がある。

研究班員・研究協力者：

金子典代（名古屋市立大学看護学部）
塩野徳史（名古屋市立大学/流動研究員）
ジェーン・コーナ（名古屋市立大学/流動研究員）
新ヶ江章友（名古屋市立大学/エイズ予防財団）
a. 首都圏地域の MSM を対象にした研究
生島 嗣（ふれいす東京）
佐藤未光（Rainbow Ring）
張由紀夫（Rainbow Ring/流動研究員）
砂川秀樹（ふれいす東京/流動研究員）
岩橋恒太（ふれいす東京/流動研究員）
荒木順子（Rainbow Ring/流動研究員）
井戸田一郎（しらかば診療所）
長谷川博史（JaNP+）
星野慎二（横浜 Cruise ネットワーク）
小林信之、山田悦子（八王子市保健所）
中澤よう子（神奈川県小田原保健福祉事務所）
b. 阪神地域の MSM を対象にした研究
鬼塚哲郎（京都産業大学）
川畑拓也（大阪府立公衆衛生研究所）
岳中美江（CHARM/流動研究員）
辻 宏幸（MASH 大阪/流動研究員）
後藤大輔（MASH 大阪/流動研究員）
山田創平（京都精華大学）
内田 優（MASH 大阪）
町 登志男（MASH 大阪）

A. 研究目的

（背景）

わが国における HIV 感染者・AIDS 患者は、1996 年以降持続的に増加し、2005 年 4 月の累積報告数は 1 万件を超えた。2005 年に報告された新規 HIV 感染者は 832 件、AIDS 患者は 367 件、計 1199 件で、感染経路別では男性同性間の性的接触による新規 HIV 感染者数、AIDS 患者数は共に増加が著しく、HIV 感染者報告例の 63.6%、AIDS 患者の 36.8% を占めていた。男性同性間の性的接触による HIV 感染者、

AIDS 患者の報告数の増加は今後も持続すると考えられ、MSM（男性と性的接触を有する男性）を対象とした HIV/AIDS 対策に重点的に取り組む必要が示されていた。

2005 年報告例の感染報告地をみると、HIV 感染者では 456 件（54.8%）、AIDS 患者では 207 件（56.4%）が東京および関東甲信越ブロックに集中し、ついで近畿ブロックからの報告数が多い状況にある。特に、日本国籍の男性同性間の HIV 感染者累計 2924 件のうち東京および関東甲信越ブロックが 64.8%、近畿ブロックが 17.8% を占め、同 AIDS 患者累計 899 件のうち 70.2%、13.0% を各々の地域が占めていた。これら首都圏地域、阪神圏地域の MSM を対象に HIV/AIDS 対策に取り組むことは、わが国における AIDS 発症者の減少および HIV 感染の拡大防止に寄与することとなる。

現在の HIV 治療の進歩はめざましく、HIV 感染者が AIDS 発症前に、治療を開始することにより、ほぼ AIDS 発症を阻止することが可能である。しかし、国内の状況は、HIV 診断時に AIDS を発症している患者の割合が約 30% であり、治療が進歩している一方で、発見の遅れによる AIDS 発症者の推移に改善傾向が認められていない現状にあると言える。

エイズ予防のための戦略研究の目的は、HIV 検査受検者を倍増し、AIDS 発症者を 25% 減少させることであり、その基本的シナリオは「HIV 感染の早期発見と早期ケア/治療を促すこと」である。感染に気づいていない人や、感染リスクを認知していながらも、HIV 抗体検査を受けていない人が検査を受け、HIV 陽性者が適切に早期治療を受けることは、AIDS の発症を予防し、HIV 感染拡大の抑制につながるものと考えられる。

先行研究より、自身の感染リスクが高いことを認識すること、HIV 感染症や HIV 感染予防に関する情報への接触経験が、HIV 抗体検査の受検行動の促進因子になっていることが示されている。また過去の研究から、当事者

性の高い啓発資材は訴求性があることが知られている。訴求性のある啓発資材の開発により、HIV 感染をより身近に感じ、自身の感染リスク認識を高めることの啓発普及を戦略的に展開することがMSMの受検行動を促進させることになるものとする。

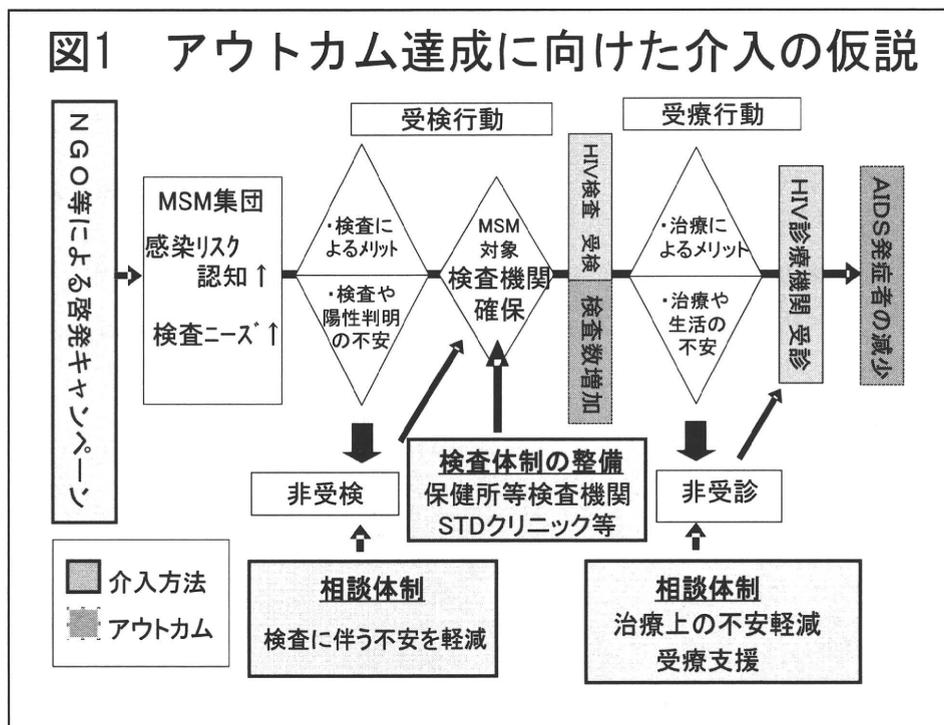
一方、受検行動を促進する啓発活動を実施するには、図1に示すように受検環境における課題に対する体制を整えることも重要と考える。

公的 HIV 抗体検査機関では、検査時間帯や曜日が限られていること、また利便性のある検査機関では受検希望者をさらには受け入れることが困難であることから、啓発普及プログラムによって、HIV 抗体検査を希望するものが検査機関を訪れたとしても、検査を受けることが出来ない可能性がある。戦略研究の成果目標である HIV 抗体検査受検者を2倍にするという目標を達成するためには、その受け皿となる HIV 抗体検査機関の整備と拡大が必須である。これまでの研究により、検査の利便性が高いことが検査行動を促進する重要な因子であることは示されているが、わが国の MSM を対象とした調査では、保健所が実施

する HIV 抗体検査についての利便性の評価は低く、「受検できる時間が限られている」ことがその理由として指摘されている。保健所や公的検査機関、STD クリニックなどと連携し、利便性のある HIV 抗体検査として、これらの検査機関へのアクセスを向上するなどのプログラムを検討することが必要と思われる。

また、啓発により感染リスクの認識が高まり、HIV 抗体検査の必要性を意識させることができたとしても、HIV 感染や HIV 抗体検査への不安から、受検行動に至らない場合がある。この対策としては、電話相談などの体制を整備し、これらの阻害因子を減少させ、受検行動を支援する体制が必要である。また、MSM への偏見から不適切な対応を行っている検査・相談機関の存在も、MSM の受検行動の阻害因子となっており、相談体制の整備として、MSM のセクシュアリティに配慮した対応や相談を提供できる医療保健スタッフのトレーニングや相談員の育成を行うことが望まれる。

第2の主要評価項目である HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数の減少の達成のためには、第一の評価項目である検査件数の増加



に加え、検査により判明した HIV 陽性者が早期に受診を開始することが必要である。しかし、検査を受けても、検査結果への不安から結果を受け取らない受検者や、陽性結果を受け取った受検者が治療等への不安から、医療機関を受診しない場合がある。このためには MSM 向け相談体制の整備として、陽性判明者への受診行動を支援する取り組みを行うことも必要と考える。

(目的)

エイズ予防のための戦略研究（以下、エイズ予防戦略研究）は、HIV 検査を 2 倍に増加させ、エイズ発症患者を 25%減少させることを目標としている。この主目標を受けて、課題 1 研究では、首都圏および阪神圏に居住する MSM（男性と性的接触を有する男性）を対象に、研究計画書に沿って啓発、検査、相談、評価調査の体制を構築し、HIV 検査促進のための啓発普及プログラムを実施し、HIV 検査件数の増加、AIDS 発症者の抑制を図ることを目的とする。

B. 研究方法

1. 対象地域・対象者

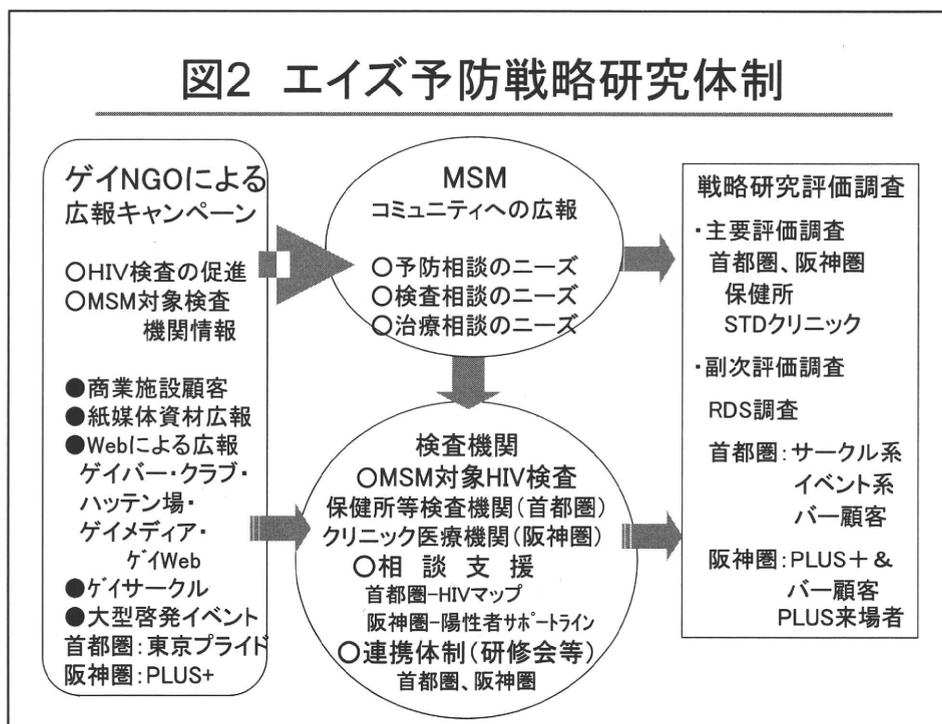
首都圏では東京都、神奈川県、千葉県、および阪神圏では大阪府、兵庫県、京都府を対象地域とし、それらの地域に在住する MSM を対象者とした。

2. 介入方法

本研究では、MSM を対象に HIV 検査受検を促進し、早期発見、早期受診によるエイズ発症防止を図るために、MSM への啓発体制、HIV 検査と相談体制、研究成果を把握する調査体制のそれぞれが連動する研究体制（図 2）を構築することとし、1) HIV 検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及、2) HIV 検査体制の整備と拡大、3) 相談体制の整備-HIV 検査で陽性が判明した患者への受診支援の整備を以下のように行った。

1) HIV 検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及

HIV 検査受検行動の促進を目的とした啓発資材を開発し、ゲイ商業施設、ゲイネットワーク、ゲイメディア、保健所や検査機関を通



じて情報の浸透と普及拡大を図る。

2) HIV 検査体制の整備と拡大

ゲイ NGO の広報と連動した現行の保健所や公的 HIV 検査機関における検査時間の延長、検査日の拡大を図る。特に夜間及び休日に受検可能な体制を働きかけた。また、STD クリニックなどの医療機関においてセクシュアリティに配慮した HIV 検査を実施し、特定の保健所においては臨時の HIV 検査を実施した。

3) 相談体制の整備

HIV 検査受検前後に不安を抱える者を対象とした MSM 向けの相談体制を整備する。首都圏では既存の NGO、NPO 等による電話相談等を関係機関・団体の許可を取って HP で案内するなどを行った。また阪神圏では HIV 陽性者を対象とした電話相談体制を設置し、相談員を育成し、相談機関を整備した。HIV 抗体検査で陽性が判明した患者の受診への不安を軽減し、早期受診を支援する体制を整備することに努めた。

3. 評価項目

1) 主要評価項目

- (1) 定点保健所および公的 HIV 検査機関、定点 STD クリニック、定点医療機関で行われた MSM の HIV 検査件数
- (2) HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数

2) 副次的評価項目

- (1) MSM 受検者のうち本研究で開発・普及した啓発・広報戦略に曝露された割合
- (2) MSM 集団における HIV 検査の生涯受検率と過去 1 年間の受検率
- (3) 検査機関で陽性が判明した感染者への結果通知割合、医療機関受診割合
- (4) 陽性割合

(倫理面への配慮)

本研究は、ヘルシンキ宣言および文部科学省・厚生労働省の疫学研究に関する倫理指針を遵守した。

1) 個人情報の使用について

定点保健所・公的 HIV 検査機関、定点医療機関、定点 STD クリニックで行われる質問紙調査は、個人を特定できる情報を含んでいない。収集したデータはデータ取り扱い手順書に基づき厳格に管理した。調査の対象となる個人には、調査の目的について、口頭もしくは説明文書によって、研究の趣旨や意義、参加が任意であること、答えたくない質問には回答する必要がないこと、参加をしなくても何ら不利益を生じることがないこと、データはすべて統計処理され、個人データが出ることが決してないことを説明し、理解と同意が得られた場合にのみ参加してもらった。

啓発普及プログラムへの接触、HIV 感染リスク認識、検査行動を調査する RDS 法による連続横断調査においても、氏名や住所など個人を特定する情報は収集しない。ただし RDS 法による連続横断調査においては、重複回答をチェックする目的で、任意で回答者に電子メールアドレスの登録を依頼するが、アドレス情報の管理は株式会社マイビジネスサービス (MBS) に委託し、情報管理に研究者は関与しなかった。委託先の MBS とは個人情報の取り扱いの規定に関する契約書を交わした。

インタビュー調査などで研究上知り得たその他の個人情報に関して守秘義務を遵守した。

2) インフォームド・コンセント

啓発普及プログラムの実施は、個人を直接介入対象としないことから、個人ごとにインフォームド・コンセントを取得しないこととした。ただし、介入地域の対象者に対し、本研究の実施について広報誌、Web 等を通して周知をはかった。具体的な啓発介入プログラムを策定するための個別的インタビューを実

施する場合は、目的、趣旨を口頭で説明し同意を得た上で行う。また会話の録音は事前に許可が得られた場合にのみ行い、会話中は仮名を用いることで、個人が同定されないように配慮した。

HIV 検査受検者に対して実施する質問紙調査については、そもそも HIV 検査を匿名で実施していることから、書面による同意は取得せず、口頭による説明を行う。調査票への回答は任意とし、研究協力に関する拒否権を尊重した。

3) 研究計画の承認

本研究計画は、エイズ予防のための戦略研究・倫理審査委員会にて審議、承認を受けるとともに、名古屋市立大学看護学部倫理審査委員会においても本研究計画の調査等の審議・承認を受けて実施した。

C. 研究結果

1. 首都圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究（生島嗣/ふれいす東京）他

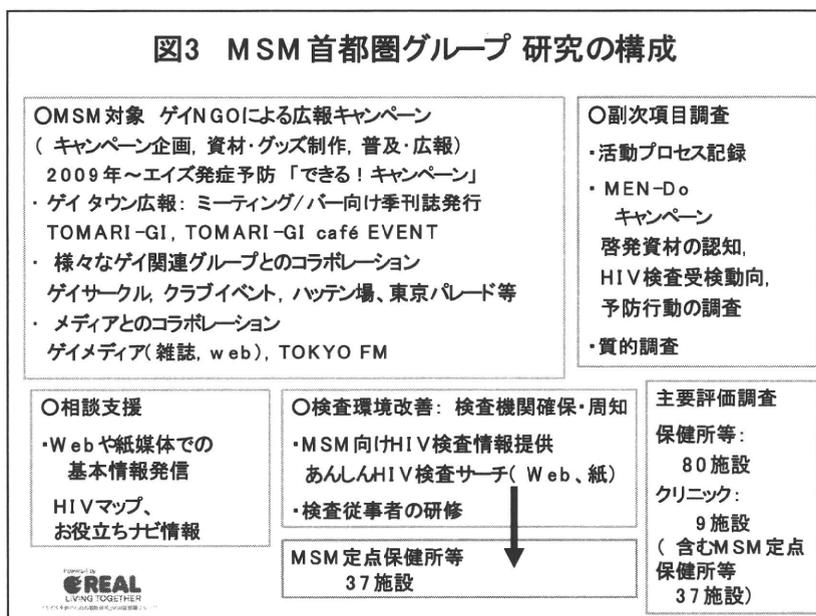
男性同性間の性的接触による HIV 感染者およびエイズ患者報告数が著しく増加していることから、東京都、神奈川県、千

葉県に居住する MSM（男性と性的接触を有する男性）を対象に、HIV 抗体検査促進のための啓発普及プログラムを実施し、HIV 抗体検査件数の増加、エイズ発症者の抑制を図ることを目的とした。研究計画書に沿って平成 18(2006)年度から平成 22(2010)年度にかけて、相談、啓発、検査、評価調査の体制（図 3）の構築を図りつつ、以下のことを実施した。

1) HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及

HIV 検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発とその実施としては、(1) 複合メディア・キャンペーン体制（携帯電話、PC 双方に対応した複数の大型ウェブサイトの構築と広報）、(2) 抗体検査受検行動を促進するためのクラブイベント、ラジオを用いた啓発普及、(3) ゲイタウンミーティングの実施、中高年層向けの資材作成と啓発普及、資材配布が行われていなかったゲイタウンへの啓発普及、(4) 多様な層（薬物依存、聴覚障害、ハッテン場ユーザー）への関係機関と協働した広報資材の開発と配布を実施した。

2007-2008 年にかけて、MSM における



HIV/AIDSの現状を伝えるREALキャンペーン、そして、HIVに関する様々なリソースを紹介する情報サイト「HIV マップ」(図5)、これらの構築と共に、新宿、上野、浅草、新橋、横浜等の商業施設等および各種のゲイサークルと連携した啓発ネットワークの構築、さらにMSMのHIV検査受検促進キャンペーンの受け入れができる保健所を紹介する「あんしんHIV検査サーチ」の確立などを準備した。

2009年からAIDS発症を予防「できる！」キャンペーンを開始し、これに関連する新たな紙媒体の広報資材を商業施設やクラブキャンペーンで配布し、インターネット(PC版、携帯版)サイトにも連動して啓発した。コンテンツには、検査情報を盛り込み、訴求性の高い資材とした。

2010年度は、年間を通しての広報普及計画をたて、訴求性のある資材とともに、定期的にリニューアルした検査機関情報を、様々な媒体(紙、MSMが利用するWeb・雑誌、イベント、商業施設、サークル活動、放送など)によって、多様なMSMに向けて提供した。「できる！」キャンペーンでは、HIV陽性者の手記、HIVの最新疫学情報、相談資源の情報、MSMの受けやすい検査施設情報の四位一体の提供を行った。2010年6月から2ヶ月ごと、4テーマ期(「セックスできる!(セーファーセックス)」、「すぐできる!(HIV検査)」、「話ができる!(相談資源)」、「ストップできる!(エイズ発症予防)」)で展開した(図4)。

各期ごとに、ゲイ向け商業施設(ゲイバー、ハッテン場、クラブ)で掲示、配布するポスター、リーフレットを作成した。リーフレットにはHIVの最新疫学情報、検査情報など、上記の4つの情報を掲載した。

ゲイバーでは、457軒を対象に1期あたり4,500部のリーフレットを配布した。TOKYOプライドパレードなど、ゲイ向け大規模イベ

ントでの配布も行った。またインターネット上でもポスター、リーフレットと同期したキャンペーンサイトのPC版・携帯版(図5)を作成した。

地域での啓発のバックアップ体制づくりとして、戦略研究において作成した啓発資材を首都圏でゲイ・バイセクシュアル男性が利用する商業施設が集まっている地域に広報するために、上野、浅草、新橋、渋谷、横浜地域の商業施設に訪問・郵送などの資材配布を行った。バーからの情報発信をサポートする、特に中高年層を意識した季刊誌として開発された“TOMARI-GI”は、2010年度は4回発行した。訪問および郵送で457軒の店舗に配布してきた。

また、バーのマスターなど、ゲイ向け商業施設におけるオピニオンリーダーが相談を受ける際に参照できる、HIV情報集「データから見る、ゲイ・バイセクシュアルとHIV/エイズ情報ファイル2010」を発行した。この冊子はゲイ向け商業施設、コミュニティセンター、検査協力施設にて配布を行なった。

上野・浅草、新橋、八王子、横浜、千葉



図4 「できる！」2010年度キャンペーンポスター